

鹿児島医セン

連携室だより

2007.10 No.19

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

「日本医療マネジメント学会第6回九州・山口連合大会」へ
多くの皆様の参加をお待ちしております

メインテーマ「医療制度改革の嵐の中で - 良質な医療の提供を目指して」

会期：平成19年11月23日(金・祝日)24日(土)

会場：かごしま県民交流センター・かごしま市民福祉プラザ

クリティカルパス研究会から発展し平成11年に設立された日本医療マネジメント学会の第6回九州・山口連合大会を開催するに当たり、県内医療機関の16名の院長、看護部長等の方々に実行委員として参加していただき、この1年余り準備を進めてまいりました。メインテーマにありますように、現在の厳しい医療環境の中で良質な医療の提供を目指して、有意義かつ活発な学びの場となることが期待できる内容のプログラムになったと思います。ぜひ、多くの方々にご参加いただき、今後の医療を考える機会にさせていただければと願っております。

日本医療マネジメント学会第6回九州・山口連合大会事務局長(耳鼻咽喉科医長)松崎 勉

プログラム

- 基調講演** 「クリティカルパスの普及と今後の展開」 日本医療マネジメント学会理事長 宮崎久義
- 会長講演** 「医療制度改革の嵐の中で - 地方の現状と方向」 日本医療マネジメント学会第6回九州・山口連合大会会長 中村一彦
- 特別講演** 「島津家と天璋院篤姫」(来年のNHK大河ドラマ「篤姫」について語る) 尚古集成館館長 田村省三
- 教育講演** 「医師の偏在と地域医療」 長崎県病院事業管理者 矢野右人
「医療事故の法律問題」 東京大学大学院医学系研究科医療安全管理学講座准教授 前田正一
「医療マネジメントと臨床倫理 - 倫理問題を「個人の悩み」にしないために -」 宮崎大学医学部生命・医療倫理学分野准教授 板井孝壱郎

シンポジウム 原点に返ってクリティカルパスの現状と課題を考える
医療安全管理者(セイフティマネージャー)の業務と問題点
医療の地域格差
インфекションコントロールチーム(ICT)の現状と未来

セミナー 医療安全講習会
クリティカルパス実践セミナー
ランチョンセミナー(ジェネリック・NST・医療安全・ICT・がん化学療法・DPC)

一般演題 222題

クリティカルパス展示 86題

事前登録を2007年10月31日まで延長しました。詳しくは学会ホームページをご覧ください。

事務局(国立病院機構 鹿児島医療センター内) 事務局長:松崎 事務担当:宮森
Email:management@kagomc.jp http://www.kagomc.jp/management/

診療科紹介

糖尿病・内分泌内科

平成18年4月に糖尿病・内分泌内科が新設されました。現在郡山暢之(医長)が、2名の看護師と栄養管理室の支援を受けながら外来診療を、また東7階病棟看護部の支援の下、病棟診療を行っております。

開設後1年半を経過したところですが、外来通院中の患者様の総数が約520名となりました。糖尿病の患者様は約370名で、大部分は2型糖尿病です。外来待合室では、糖尿病に関する知識を広げていただくために常にDVDやビデオを上映し、患者様が自由に持ち帰ることが出来るよう多種のパンフレット類を配置して自己学習環境を整えております。栄養管理室の協力により、受診当日を含む患者希望日に栄養相談を受けられる体制も整いました。更に臨床検査部の協力により、血糖・ヘモグロビンA1c・グリコアルブミン・インスリンなどの重要検査結果を当日迅速にフィードバックできる体制も整い、来年早々には、簡易型末梢神経伝導速度測定用機器を使用しての検査も可能となる予定です。インスリン療法が必要な患者様に対しては、外来看護師の指導により、可能な限り外来で導入(自己注射指導および血糖自己測定指導)するように努めています。また、毎週月～金曜の14:30より、当院オリジナルの資料やビデオを駆使しての糖尿病教室を実施しており、医師の他に院内各部門からの講師(看護師、栄養士、薬剤師、検査技師)が講義にあたっています。この糖尿病教室を核にして、加療・教育を目的とした入院診療を、10日間のクリティカルパスを中心にして東7階病棟で行っておりますが、週末(金～土曜日)1泊2日の教育入院、あるいは平日2泊3日の検査・教育入院もニーズに応じて実施できるようになりました。

「霽月(せいげつ)会」という患者と医療従事者65名からなる会も結成され、日本糖尿病協会発行の雑誌「さかえ」の配布購読の他、調理実習、ウォークラリーへの参加や懇親会など、「無理なく、楽しく」をモットーに、年に数回の活動を行っていく予定にしています。霽月とは、雨上がりの澄み渡った空に月が冴える景色を表しており、少しも執着がなくさっぱりとして澄みきった心境を形容して使われる「光風霽月」からとったものです。糖尿病をこのような心境で受け入れて、自分自身を大切に管理して欲しいという思いを込めた、当院院長のネーミングです。当科は、今後も患者様の「生活の質」の向上を目指し、しっかりとした良質の糖



尿病医療を提供して、糖尿病の発症予防や糖尿病合併症の発症・再発防止を達成すべく、地域医療に貢献して参りたいと考えております。

一方、現在定期通院中の内分泌疾患の患者数は約150名で、下垂体疾患、甲状腺・副甲状腺疾患、副腎疾患など多彩です。中でも甲状腺疾患の患者様は日々増加している状況です。それ以外にも、特にバセドウ病や慢性甲状腺炎を中心とする甲状腺疾患や副腎偶発腫の精査、その他二次性高血圧の鑑別を目的に受診されたり、あるいは他院よりご紹介いただく患者様が増えております。外来診察室での甲状腺エコー検査(穿刺吸引を含む)の他、必要に応じて各種内分泌負荷試験を実施しての診断が可能です。比較的稀な加療である、成長ホルモンやhCG、FSHなどの自己注射による補充療法、管理にも積極的に取り組んでおります。内分泌疾患という解りにくい病態について可能な限り丁寧に説明を行うことで、少しでも患者様方の不安を緩和できるよう努めております。当科は、鹿児島県には数少ない、内分泌疾患診療の可能な施設として地域に貢献し、多くの患者様方に適切な医療を提供していけるよう今後も努力して参ります。

研究面では、臨床研究部との共同で、インスリン分泌刺激薬であるスルフォニル尿素(SU)薬における新たな副作用を探索しております。また、排尿障害や睡眠障害など、糖尿病患者様の生活の質に密接に関わるものでありながら、普段患者様が訴えることの少ない症状の抽出、その頻度調査やケア方法の確立を目的として看護部との共同でアンケート調査を開始しました。今後、多くの部署との共同研究を進展させていき、鹿児島島の地から全国に向けて情報を発信、ひいては糖尿病・内分泌疾患診療におけるケア、検査、治療などの面で、患者様方にそれらの結果を還元できるよう努力していきたいと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

登録医医療機関紹介 第6回

前田内科クリニック

当院は、昭和53年2月に豎馬場のタイヨ-ストア-前で開院し、昭和56年10月に現在の鹿児島駅前に移転しました。入院19床(療養病床4床を含む)、人工透析病床30床、スタッフは医師2名、臨床工学技士2名、看護師19名、看護助手4名、栄養士2名、事務5名、厨房4名、理学療法士1名、ケアマネージャー2名です。標榜している科は、内科、循環器科、消化器科で、人工透析を中心に一般内科、超音波検査、胃内視鏡検査等を行っております。

鹿児島医療センターは当院から直線距離で500mの距離ですし、院長の中村先生は同じ第2内科の御出身、長男も第2循環器科で勉強させて頂きました関係で、公私共に大変お世話になっております。

もう25回以上続いております「病診連携の会」では、毎回新しい知識を教えて頂いて、かねての勉強不足を補わさせて頂いております。透析患者は、冠動脈合併症を持った方が多く、経皮的冠動脈拡張術や冠動脈バイパス手術等を頻回にして頂いておりますが、術後の透析は泌尿器科の仮屋先生にお世話になっております。小児科の吉永先生には鹿児島市学校検診委員会で学童の心臓検診の方でお世話になっておりますが、先生が研究しておられる高校生のメタボリックシンドローム



検診に、玉竜高校を通じましてご協力出来ていることは幸いです。

平成13年11月には、私自身の肺腫瘍病変を、放射線科の牧野先生と外科の宮崎先生にVATSで治療して頂きました。幸い炎症性肉芽腫とのことで、今も元気でゴルフができております。先日は牧野先生がお作りになった禁煙講演会のCD-Rを院内勉強会で見せて頂き、職員の禁煙意識の高揚に大いに役立ちました。

CKDはCVDの始まりですので、腎臓病診療が主体の当院は、鹿児島医療センターのご協力を頂かなくては成り立ちません。どうぞ末永く宜しくお願い申し上げます。

院長 前田 忠

診療メモ

「心房細動」

心房細動は心房性期外収縮や心室性期外収縮とならび、日常診療で最も頻繁に遭遇する不整脈の一つであり、古くて新しい不整脈として注目されています。心房細動が持続した結果、心房筋に生じる電気生理学的変化、リモデリングは可逆的な変化であるが、心房細動の持続が長くなると構造的な変化(心筋細胞の変化、線維化など)も出現するようになります。そのため、心房細動があると、心機能が低下するだけでなく、心房内に血栓が生じ、心原性脳塞栓症の原因となります。心房細動の心原性脳塞栓の発生率は、弁膜症のない場合は約5倍、弁膜症を合併している場合は約17倍に及びと言われています。全脳梗塞患者の約1/3は、弁膜症のない心房細動患者に発生していると考えられています。発作性心房細動でも65歳以上の方は若年群と比較して有意に塞栓症のリスクが高くなります。CHADS2スコア[うっ血性心不全(CHF)、高血圧(HT)、年齢(Age)、糖尿病(DM)、脳卒中の既往(Stroke;これのみ2点)]の危険因子が累積すると脳塞栓症のリスクが高くなります。以上のことから、心原性脳塞栓の予防にワーファリンが極めて有効であります。しかしながら、その調節が難しいため服用率は低く、特に高齢者および発作性心房細動患者にその傾向が強いようです。ワーファリンの管理はPT-INRにてコントロールします。非弁膜症性心房細動の塞栓症の二次予防試験において、その効果はPTINRが1.6以上から認められ、2.0~2.6で多少の出血の危険が出現し、2.6以上では逆に重症出血の危険が高くなります。完全な抗凝固療法は外科的手技で出血の危険を増加させるが、抗凝固療法の中断は血栓塞栓の危険を増加させます。内視鏡治療を行う場合でも、薬剤の中断で血栓塞栓の危険性があり、またそのまま継続すれば持続出血の危険性があるため、一定の休薬期間が必要になります。日本消化器内視鏡学会が指針を作成しており、抗凝固薬の休薬は3~4日でPT-INR 1.5を基準とし、抗血小板薬は薬剤の種類により3~5日間の休薬との基準が定められています。ご不明な点があればご相談下さい。

(第二循環器科医長 藺田正浩)

新new任 紹face介



外科医長

ふくえだ みきお
福枝 幹雄

平成4年、鹿児島大学医学部を卒業し、旧第二外科に入局しました。当院には平成7年にレジデントとして1年間お世話になり、その後県内外の関連病院で消化器外科を中心に研修してまいりました。高齢者人口の増加と、また、当院診療科の特徴から合併症をかかえた患者さんの消化器外科手術が多いようです。各科の先生方のご指導を仰ぎながら頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科医師

たかき みのる
高木 実

平成10年に久留米大学を卒業し、鹿児島大学耳鼻咽喉科医局に入局させていただき、今回平成19年8月より、鹿児島医療センターで勤務させていただくことになりました高木実です。いろいろ皆様にはご迷惑をかけると思いますが、御指導・御鞭撻の程よろしくお願ひいたします。



外科レジデント

しげひさ よしや
重久 喜哉

平成14年に鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学医学部旧第二外科へ入局致しました。このたび、平成19年8月から外科レジデントとして勤務させていただくこととなりました。前勤務先は鹿児島市医師会病院で、今回6ヶ所目の病院勤務となります。まだまだ未熟者ですが、日々精進を重ね、フットワークを大切にがんばりたいと存じます。宜しくお願い致します。



麻酔科レジデント

ふたつき たかひろ
二木 貴弘

平成19年4月に鹿児島大学麻酔科に入局し、このたび7月より当院麻酔科レジデントとして勤務させて頂くことになりました。勤務中は手術室の中で過ごす時間が長く、病棟・外来などへ足を運ぶ機会が少ないため慣れない点が多くご迷惑をおかけすることもあると思っておりますがご指導の程宜しくお願ひ致します。また、患者様には痛みのない麻酔を提供していきたいと思っておりますのでこれから宜しくお願ひ致します。



理学療法士

やました まゆこ
山下 真由子

平成16年に鹿児島大学医学部保健学科を卒業し、福岡の回復期リハビリテーション病院に3年間勤務しました。平成19年5月より当院にて勤務させていただいております。急性期の病院ははじめてなのでご迷惑をおかけすることもあるかと思っておりますがよろしくお願ひ致します。



理学療法士

ふくなが ひろゆき
福永 浩幸

平成19年に福岡東医療センター附属リハビリテーション学院理学療法学科を卒業し、今年度より独立行政法人国立病院機構へ入職、当院へ配属となりました。理学療法士・機構職員として1年目であり、色々ご迷惑をおかけすることもあるかと思っておりますが、ご指導の程よろしくお願ひ致します。

お詫び

左記の山下真由子さんの自己紹介を前号に掲載しましたが、誤って他の人の文章を載せてしまいました。お詫びして今回改めて掲載させていただきました。

お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
(代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、大渡、平田、中島、田添、池上、善福
直通電話 ▶▶ 099-223-4425
フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
※休日・時間外は当直者で対応します。

